

目的(ねらい)

同じ地域の施設で生活している高齢者から話を聞いたり、交流をしたりすることによって
 ①高齢者との交流を深め高齢者観をふりかえる ②介護が必要な状態について学ぶことを目的とする。

参加対象・条件

- ・児童・生徒…1グループ4人くらいまで
- ・協力者(施設入所者)…グループに1人

想定される主催者

- ・学校の授業と施設の共催
- ・地域行事と施設の共催
- ・子ども会行事と施設の共催
- ・企業と施設の共催

主な役割分担

- ・入所施設で生活している高齢者…施設内案内
- ・施設職員…入所者のコーディネート
- ・学校などの主催者…企画運営・調整
- ・社協、福祉学習サポーター…コーディネートへの
(高齢者疑似体験インストラクター…疑似体験の指導)
- 協力

プログラム(単元)の流れ	準備事項(役割)等
★Step1 お年寄りってどんなイメージ? ⌚【1時間】 ○お年寄りにどんなイメージを持っている? ○そのイメージはどんなところから来ているのかな?	○実施(主催者・社協・福祉学習サポーターなど)
Step2 お年寄りから教わろう ⌚【2時間】 ○子どもの頃の話などを聞きながら、入所者の方から手芸や折り紙を教わる	○レクリエーションの企画(主催者・施設・社協など) ○手芸などの指導(入所者)
Step3 施設を案内してもらおう ⌚【2時間】 ○グループに分かれて入所者の方に子ども達を案内していただく	○施設内案内(入所者)
Step4 ふりかえり① ⌚【1時間】 ○感想 •おじいさんおばあさんはどんな人たちだったかな?	○実施(主催者・社協・福祉学習サポーターなど)
★Step5 体の変化を体験しよう ⌚【1時間】 ○高齢者疑似体験をし、高齢になることによる体の変化を体験する	○体験指導(疑似体験インストラクター)
Step6 ふりかえり② ⌚【1時間】 ○施設のみなさんにお礼の気持ちをこめて自分たちにできることを考えてみる	○実施(主催者・社協・福祉学習サポーターなど)
★Step7 お礼をしに行こう ⌚【2時間】 ○Step 6で考えたことの準備をし、施設に出向く (例) 授業で作った作品のプレゼント、授業で練習した歌や踊りの披露、小さなお手伝いなど	



*今回は介護の必要な状態の高齢者との交流ですが、子どもたちの高齢者像がそれだけに固まってしまわないよう、例えば子どもたちの祖父母(60代～)にも目をむけていくなどの留意が必要です。

*高齢者の施設だけでなく、障がいのある人の施設などでも同様の展開で実施することができます。

ヒント
9

精神障がいってどんなこと？

目的(ねらい)

精神障がいについて学び、精神障がいのある人と交流することによって偏見をなくすことを目的とする。

参加対象・条件

- 地域住民

想定される主催者

- 推進協
- 精神障がい者施設など

主な役割分担

- 精神障がい者施設職員、利用者、支援ボランティア……交流への協力
- 病院関係者、保健所……講話への協力
- 推進協……企画運営・調整・周知
- 社協……調整の協力、講話への協力

プログラム(単元)の流れ	準備事項(役割)等
Step 1 福祉講演会の開催  [2時間] <ul style="list-style-type: none"> ○障がいについての話、本人や家族からの生活の話を聞く ○施設のPRコーナーや、障がいの人の趣味の作品展などを併設するなど 	<ul style="list-style-type: none"> ○講演会の運営(主催者) ○講話 (病院関係者、本人、家族) ○PRコーナー (施設・支援ボラ)
Step 2 利用者と交流する  [1.5時間] <ul style="list-style-type: none"> ○施設利用者との交流の機会をつくる (例) ゲームをしたり、ふだんの生活の話などをする <p>※講演会や交流は必ずしも大人数でなくても、少人数の方がスムーズにいくこともあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○交流への協力 (施設・支援ボラ)
Step 3 ボランティア体験をする  [3時間] <ul style="list-style-type: none"> ○施設・病院でのボランティア体験を企画する (例) 作業などを一緒にやる 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験への協力 (施設・病院)
Step 4 ふりかえり <ul style="list-style-type: none"> ○講座を通しての感想を共有し、共感することや疑問に思うことなどをさらに深めて話す 	<ul style="list-style-type: none"> ○協力(施設・病院・支援ボラ・家族会)
★ Step 5 繼続的な関係づくり <ul style="list-style-type: none"> ○興味を持った人に対してボランティア養成講座などを企画 	<ul style="list-style-type: none"> ○講座開催(社協または施設)

参考 知的障がいの人を理解する講座も、同様の展開で実施することができます。

目的(ねらい)

障がいのある方や高齢者の方から子どもたちがものづくりを習いながら交流を深めるもので、商店街や小規模作業所・高齢者グループ等と連携して行う。作ったものは実際に子どもたちが売ることによって主体性を高め、親や商店街など地域の人からの注目を集めることもねらいとする。

参加対象・条件

- ・児童・生徒

想定される主催者

- ・学校の授業と施設・商店街の共催
- ・推進協や子ども会と施設・商店街の共催
- ・企業

主な役割分担

- ・施設入所者・高齢者趣味グループ・小規模作業所等……作り方を教える・周知への協力
- ・商店街……キッズマーケット開催場所の提供・周知への協力
- ・学校などの主催者……企画・調整・運営
- ・社協……コーディネートへの協力

プログラム(単元)の流れ

準備事項(役割)等

Step1 製品づくりを体験しよう

【2時間×継続】

- 作業所等において障がいのある方や高齢の方からパン作りや手芸等、作り方を習い、製品づくりの体験をする。
- ゲーム等を取り入れ、楽しみながらできる雰囲気をつくる
- 数箇所に分かれて実施。

- 体験協力先のコーディネート(主催者、社協など)

- 作り方を教える(施設利用者)

Step2 施設について勉強しよう

【2時間】

- 施設がどんなところか、どんな人たちがいるところか
- 施設に来ている人はどんな生活をしているのか
- 障がいについての話
 - ・交流・体験する中で感じたことなどを共有しあう。

- 話(当事者講師、施設職員など)

Step3 キッズマーケットを計画しよう

【1時間】

- 作った物などを地域の商店街で売る企画を立てる
 - ・スケジュール、販売方法、広報、販売金額の設定など

- 商店街との調整(主催者)

- 企画打合せ(主催者、児童)

Step4 マーケットの開店準備をしよう

【1時間】

- 周知用ちらし作り
- ポスター・看板作り、値札つけなど
- ちらしの配布・回覧

- 開店準備支援(商店街・主催者)

- 広報(児童・主催者)

Step5 キッズマーケット開店

【3時間】

- 作った製品と作業所の商品を売る

- 場所の提供(商店街)

- 販売(児童・施設)

★ Step6 ふりかえり

【1時間】

- 売上金の使い道を検討する



兵庫県で実際に取組まれている企画です。